



7月1日にJR猪苗代駅前啓発チラシを配る参加者

犯罪のない明るい社会へ

「社会を明るくする運動」強調月間

「社会を明るくする運動」強調月間の7月、町内では猪苗代地区の保護司会や更生保護女性会などの関係団体により、犯罪のない明るい社会を築くための活動が行われました。7月1日早朝にはJR猪苗代駅前啓発活動を実施。参加した約30人がチラシなどの啓発グッズを配り、非行防止などを呼びかけました。16日には町内広報活動として広報車で呼びかけを行ったほか、事業所へ訪問し、明るい社会づくりへの協力を求めました。

未来を担う青少年の主張

青少年メッセージ2024

青少年メッセージ2024第37回青少年の主張猪苗代町大会は7月13日、学びいなかで開かれました。大会には町内の小・中・高校から10人が参加。家庭や学校で考えたり取り組んでいること、将来の夢などについて、自由な発想で発表しました。審査の結果、猪苗代第二小6年の鈴木創介さんと猪苗代中3年の橋本優輝さん、猪苗代高3年の田部萌心さんが最優秀賞を受賞。このうち、鈴木さんが特別賞に選ばれました。



「大切にしよう一秒の言葉」を発表し特別賞を受賞した鈴木さん



湖畔に設置されたモニュメントでポーズをとる来場者

湖畔でアウトドアを満喫

GO OUT CAMP 猪苗代 vol.10

猪苗代湖畔で子どもから大人までキャンプを楽しめるイベント「GO OUT CAMP 猪苗代 vol.10」は7月19日から21日までの3日間、天神浜オートキャンプ場で開かれました。

会場では、音楽ライブや多彩なアトラクションが繰り広げられたほか、アウトドア用品などの出店が立ち並びました。また、猪苗代町の特産品を用いたキャンプ料理教室なども行われ、参加者はアウトドアを満喫していました。

新たな交通手段で町内観光

電動キックボードと電動バイクの貸し出し始まる

猪苗代観光協会は、7月13日から10月14日までの期間、電動キックボードの実証実験を行います。これは、町の課題となっている2次交通の代替手段として、観光客の行動範囲を広げる試みです。同協会では、人気の観光スポットを巡るコースや猪苗代湖が見下ろせるコースなどを設定しました。このほか、2次交通を充実させるため、町内の観光地を巡るバス「ひでよくん号」が11月10日までの土日と祝日に運行されます。



新たに導入された電動キックボードと電動バイク



植田総裁(中)から最終製造券を受けた二瓶町長(左)。右は大津俊哉国立印刷局理事長

野口博士から北里博士へ 新千円札発行

最終製造の野口英世千円札が猪苗代町へ
7月3日、野口英世が印刷された千円札の広報に貢献したとして、日本銀行本店で、植田和男総裁から二瓶盛一町長に記番号「HM299998A」の旧千円札最終製造券と感謝状が手渡されました。
細菌学者の野口博士の肖像が千円札に採用されるのは今から約20年前の平成16年11月1日。7月3日からは、恩師の北里柴三郎博士を肖像とした新千円札に変更されました。

野口英世千円札発行終了に伴い本町は7月4日、野口英世博士に感謝状を贈りました。科学者として初めて日本の紙幣に採用され、千円札の肖像として20年にわたって猪苗代町の全国的な知名度向上と日本経済の発展に貢献したとして、野口英世博士宛ての感謝状を同記念館の八子弥寿男館長に手渡しました。
同記念館では、新千円札発行を記念して、企画展「野口英世と恩師北里柴三郎の絆」を令和7年3月16日まで開いています。展示室には、細菌学者として世界で活躍した2人の師弟の縁の紹介とともに、記番号「HM300000A」の最終製造券が展示されています。

野口英世博士に感謝



二瓶町長から感謝状を受ける八子館長(左)



Interview

野口英世記念館
八子 弥寿男 館長

物事にはすべて始まりがあれば必ず終わりがあります。野口博士の千円札も残念ながら例外ではありません。20年間の役目を終えて博士が若いころにお世話になった北里先生に交代です。

私共にとっては、正直残念なことですが、科学者として野口博士が我が国最初のお札の顔に登用された事実は、永遠に消えることはありません。そのことを誇りとして語り続けられ、何れの日にか大河ドラマにでも取り上げられる日が来るでしょう。その夢が叶う時が来たならば、再び「野口、野口」の大合唱で猪苗代町が輝き全国に知れ渡る時です。その日が1日でも早く訪れることを切望しております。



Interview

猪苗代の偉人を考える会
小檜山 六郎 会長

20年前に科学者として初めて千円札の顔になった野口英世博士は、生まれ故郷のわが町や福島県に貢献してきました。

同じ科学者で、野口博士の恩師でもある北里柴三郎博士に引き継がれたことは、何かの縁かと思ひ、大変意義深いことです。北里博士も、野口博士と同様に、まだ発展途上国だった日本から、世界に雄飛し、科学の発展と人類の幸福のために生涯を尽くし、科学の発展にも繋がりました。

ニューヨークの野口博士の墓碑に刻まれた、「科学への献身により、人類の為に生き、人類の為に死んだ」の言葉が思い出されます。